

Windows PC および物理サーバー向け Active Backup for Business 管理者ガイド

Active Backup for Business 2.5.0を前提としています



目次

はじめに	2
本ガイドについて	2
想定読者	2
Active Backup for Businessとは？	2
機能と管理ツール	4
バックアップと復元機能	4
バックアップ管理	5
プランニングと準備	7
条件	7
検討事項と制限事項	8
バックアップのヒント	9
バックアップ設定	10
Windows PCとサーバー バックアップ	10
バックアップタスクの作成	11
バックアップ タスクの管理	13
復元ガイド	15
リカバリ オプション	15
デバイス全体の復元	15
個々のファイルを復元	17
仮想マシンにサーバーを復元	19
ベストプラクティス	20
リモート バックアップのコピーを保持し、再リンクする	20
Windows環境での大規模デプロイメント	21
詳細情報	24
関連の記事	24
ソフトウェア仕様	24
その他のリソース	24
付録	25
権限とセキュリティ	25

はじめに

本ガイドについて

本ガイドでは、Active Backup for Businessの概要を理解していただいたから、バックアップタスクの初期セットアップの実施を説明し、そして復元に関する情報を提供します。

想定読者

本ガイドは、Windows PCまたは物理サーバーをバックアップするためにActive Backup for Businessの利用を始めようとする方向けです。

Active Backup for Businessとは？

Synologyのオールインワン型商用データ保護ソリューションである、**Active Backup for Business (ABB)** は、受賞歴のあるDSMオペレーティングシステムをベースにしています。ABBは、仮想マシン、物理サーバー、ファイルサーバー、パーソナルコンピューターなど、さまざまなIT環境にわたるデータ保護を一元化します。管理者は、希望の保護を、ABBの一元化されたadminコンソールを通して単独で展開できます。

ABBはまた、広範囲のバックアップ オプションおよび復元ツールのみならず、多くのオプション技術や安全に関する機能を提供します。

Active Backup for Business使う理由

- お客様のワンストップ バックアップ ソリューション – バックアップ環境内のすべてが対応しているかどうかの確認は簡単ではありません。特に考慮すべき要因が多い場合には。ABBは、お使いのSynology NASにオールインワンのソリューションを与えることで確認がシンプルに行えます。
- スマートストレージ – ABBは、クロスプラットフォーム、クロスデバイス、クロスバージョンでの重複排除を組み込んだ設計になっており、バックアップ時間が短縮され、ストレージの利用効率が向上します。(対応モデルを見る)。
- 制約のない拡張性 – デバイスやデータが増加していますか？問題ありません。ABBでは、デバイスやデータの数は無制限、ライセンスフリーで保護ができます。
- 一元管理 – ABBの直感的なウェブベースのポータルを利用することで、複数プラットフォームにまたがるバックアップタスクやデバイスの管理にかかるIT作業者の負担を無くします。
- 統合サポート – なにか問題が発生した場合、それがハードウェアかソフトウェア関連かいずれであっても、Synologyのテクニカルサポートはご支援の用意を怠らず、異なるプロバイダーからの支援を探すのに必要な時間と労力を減らせます。

機能と管理ツール

バックアップと復元機能

アプリケーション対応バックアップ

アプリケーション対応バックアップを有効化すると、アプリケーション データの一貫性を確保するのに役立ちます。アプリケーション対応バックアップバックアップを有効化したバックアップは、バックアップ実施時にアプリケーション データのスナップショットを作成することにより、将来アプリケーション データを簡単に復元できるようにします。

この機能は、VMware ToolsとMicrosoftの[Volume Shadow Copy Service \(VSS\)](#)を使用して、仮想マシンのバックアップ済データの一貫性を維持し、頻繁に使用されるデータをバックアップする際にデータの矛盾が発生するのを防ぎます。

増分バックアップ

増分バックアップは、バックアップ先に保存される重複排除されたデータの量だけでなく、各バックアップで転送されるデータ量を減らすバックアップ機能です。これは、変更履歴を記録し、前回のフルバックアップ以降に変更あるいは新たに追加されたデータだけをバックアップするものです。これは、利用できるバックアップバージョンの数を最大化し、バックアップ保持で使用されるストレージ量を最小化します。さらに、ソースデバイス上での時間と帯域を節約します。

Active Backup for Businessで採用されているCBTテクノロジーは、**Microsoftボリュームシャドウコピー サービス (VSS)** を使用してデバイスのスナップショットを作成し、スナップショット間で変更されたブロックを特定します。増分バックアップを有効にするには、保護されている各デバイス上で**VSS**がオンになっていることを確認してください。

データ重複排除

Active Backup for Businessは、Synology NASへバックアップを保存する時に、異なるファイル、バージョンあるいはデバイス間で、同一なデータを検出し、取り除きます。特にデバイスが同様のオペレーティングシステム、ソフトウェア アプリケーションあるいはファイルを共有する場合、組み込まれている重複排除テクノロジーがストレージの使用を削減します。

データ重複排除技術についての詳細情報と、ABBでの重複排除の算出方法は、[データ重複排除ホワイトペーパー](#)をご参照ください。

内蔵ハイパーバイザー

ABBとSynologyの内蔵ハイパーバイザーである**Synology Virtual Machine Manager (VMM)** を統合することで、Active Backup for Businessの次の2つの優れた機能が発揮されて、サーバーのクラッシュ

時により効率的な復元が可能になります。物理サーバーの仮想マシンへの**バックアップ検証**と**即時復元**。

バックアップ検証

バックアップ検証が有効化されると、復元でスケジュールされるトライアルランは設定された秒数の間、VMMで実行されます。このプロセスは、参考のためビデオに記録されるため、突然の災害時にも、データのバックアップが正常に復元できることを確認できます。

即時復元

即時復元によりユーザーは、ABBでバックアップされたサーバーと仮想マシンを、Synology VMM内の仮想マシンとして即時に復元できます。システムクラッシュの時にサービスを利用し続けながら、この機能を使用して迅速な回復が可能です。

バックアップ管理

Active Backup for Business Agent

Active Backup for Business Agentは、バックアップタスクを実行する前に、お客様のクライアントデバイスにインストールされるユーティリティです。このエージェントをインストール、アップデート、またはアンインストールするには、管理者権限が必要です。

このツールは、[ダウンロードセンター](#)でダウンロード可能です。インストレーション指示、大規模デプロイメントの詳細、その他の情報に関しては、[ABBエージェントヘルプ記事](#)を参照してください。

Active Backup for Business Portal

Active Backup for Business Portalは、ABBのアフィリエイト復元ポータルです。このポータルにより、管理者および管理者によって任命されたエンドユーザーが、バックアップされたデータにアクセス、閲覧、ダウンロード、および復元することができます。

このツールは、Active Backup for Businessパッケージのインストール中に自動的にインストールされます。ポータルの操作の仕方や、復元の実行方法、およびその他の設定は、[ABBポータルのヘルプ](#)を参照してください。

Active Backup for Business リカバリメディアクリエイター

Synology **Active Backup for Business** リカバリメディアクリエイターは、ABBと共に使用できるデスクトップツールです。このツールは、管理者がリカバリメディアを自動的に作成し、ベアメタルまたはボリュームレベルの復元を実行できるように設計されています。リカバリメディアを作成しようとするデバイスが、64ビットバージョンのWindowsで動作し、同一の言語および地域設定になっており、リカバリ対象のデバイスと同じWindowsバージョンおよびドライバーである場合には、管理者はこのツールを用いることができます。

自動リカバリメディア作成の要件に適合しないデバイスに対しては、管理者は代わりに手動リカバリメディア生成を行うことができます。

自動および手動のリカバリメディア作成を行うためには、[リカバリメディア作成ガイド](#)にある手順に従ってご自分のデバイスに対するリカバリメディアを作成してください。

プランニングと準備

条件

詳細な情報は、[Active Backup for Businessの全仕様](#)を参照してください。

NASシステム要件

推奨事項は、[Active Backup for Businessを実行する適切なNASの選び方](#)を参照してください。

アイテム	条件
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• DSM 7.0 以降 (ABB 2.2.0 以降)• DSM 6.2 以降 (ABB 2.1.0 以降)• DSM 6.1.7 以降 (ABB 2.0.4 以降)
CPU アーキテクチャ	64 ビット x86 (x64)
システム メモリ	理想的なバックアップ パフォーマンスのため 4GB RAM を推奨
ファイル システム	Btrfs

サポートされるシステム

バックアップタイプ	システム/バージョン
PC	<ul style="list-style-type: none">• Windows 11 (全エディション)• Windows 10 Creators Update (全エディション)• Windows 10 (全エディション)• Windows 8.1 (全エディション)• Windows 7 SP1 (全エディション)

物理サーバー

- Windows 11 (全エディション)
- Windows 10 Creators Update (全エディション)
- Windows 10 (全エディション)
- Windows 8.1 (全エディション)
- Windows 7 SP1 (全エディション)
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2

バックアップと復元に関する要件の全一覧は、[要件と制限事項](#)をご参照ください。

検討事項と制限事項

NAS

- バックアップ性能を最大化するためには、DSMで同時に実行するパッケージの数が多すぎないようにしてください。
- バックアップタスクを実行するためには、バックアップ先とパッケージがインストールされているボリュームの両方に少なくとも8 GBの空きスペースを確保してください。

バックアップクライアント (PCおよび物理サーバー)

- バックアップクライアントは、**NTFSファイルシステム**を使用していなければなりません。
- バックアップを実行するには、**Microsoftボリューム シャドウ コピー サービス (VSS)** が有効になっていなければなりません。
- VSSスナップショット ストレージに適切な量のディスク容量を確保してください。VSSの設定に関する詳細情報は、Microsoftの**ボリューム シャドウ コピー サービス**を参照してください。
- 外部デバイス向け：外部ハード ディスクのみバックアップできます。フロッピー ディスク、サムドライブ、フラッシュ カード リーダーなど他の外部デバイスはサポートされません。
- 4Knディスクを持つはサポートされません。
- Windowsの仮想ハード ディスク (VHD) のバックアップはサポートされません。VHDをバックアップする場合は、**デバイス全体**またはVHDファイルがある**ボリューム**をバックアップしてください。

ネットワーク

- NASとクライアントの間でセキュアな接続を確立するには、DSMがABBに対する有効な証明書を持っているようにしてください。
- エージェントからサーバーへの接続にDDNSあるいはIPアドレスを使用する場合は、[推奨ネットワーク構成](#)を参照してください。

バックアップのヒント

- Windows VSSの機能と競合しないよう、他のバックアップソフトウェアは使用しないでください。
- お使いのABBバージョンで[バックアップ対象のデバイスがサポートされている](#)ことを確認してください。
- バックアップが過大な領域をとらないように古いバックアップバージョンが削除されるよう、**保持ポリシー**を設定してください。
- データの通常のバックアップを維持するよう、**バックアップスケジュール**を設定してください。
- ユーザーが必要に応じてバックアップおよび復元の個別ファイルを表示できるよう、**Active Backup for Business Portal**へのアクセスを許可してください。
- **Hyper Backup**または**Snapshot Replication**を使用して、[3-2-1バックアップ規則](#) (3つのバックアップを2つの異なるストレージメディアと1つのオフサイトに)を導入することで、データに2層目の保護を追加してください。

バックアップ設定

次のセクションは、バックアップターゲットの準備、新しいバックアップタスクの作成と実行、オプションおよび設定についての手順をご説明します。

Windows PCとサーバーバックアップ

Active Backup for Businessは、[Synology Active Backup for Business Agent](#)の支援を受けて、Windows PCとサーバーをリモートでフルバックアップできるようにします。

はじめる前に

1. 保護しようとするターゲットデバイスに**Synology Active Backup for Business Agent**をインストールしてください。デバイスに32ビットまたは64ビット版のインストーラーをダウンロードするには、Synologyの[\[ダウンロードセンター\]](#)または、**[Active Backup for Business] > [PC]**または**[物理サーバー] > [追加]**に進みます。
2. **Active Backup for Business**のテンプレートを設定します。**[設定] > [テンプレート] > [作成]**の順に選択して新しいテンプレートを作成するか、デフォルトテンプレートを選択して**[編集]**をクリックします。

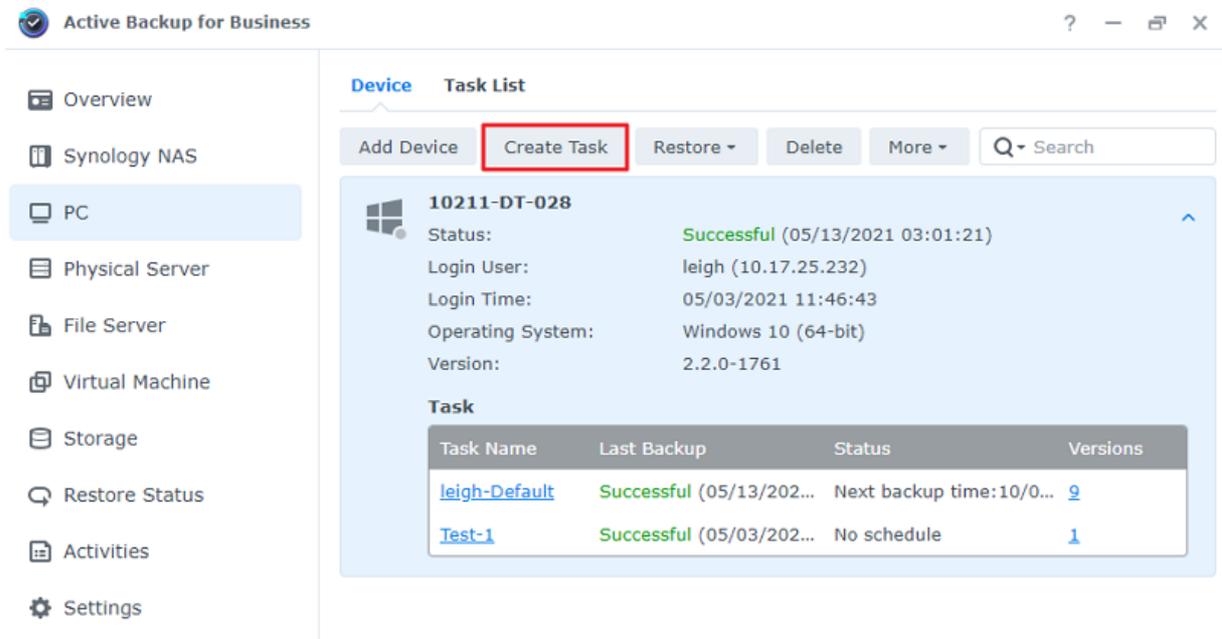
注：

- ABBは、TCPのネットワークポート**5510**を使用します。
- バックアップ設定をテンプレートで行うと、複数デバイスに対して同じバックアップ設定を適用することができます。デフォルトのバックアップテンプレートは常にリストされ削除することができません。
- テンプレートを作成する際、**バックアップタイプ**、**バックアップスケジュール**、**圧縮設定**、**暗号化設定**、および**バージョン保持ポリシー**について指定できます。
- 管理者、administratorsグループに属するユーザー、および権限を持つユーザーだけが、**Active Backup for Business Portal**を使用してデバイスバックアップにアクセスしたり、リカバリメディアを使用してデバイス全体を回復することができます。PC復元を行なう権限は**設定できません**。物理サーバーの復元を行なう権限は、バックアップテンプレートで設定できます。

バックアップタスクの作成

Active Backup for Business AgentがPCまたは物理サーバーにインストールされ、Synology NASに接続されると、適用可能なテンプレートに従ってバックアップ タスクが作成されます。各デバイスに対して1つ以上のバックアップ タスクを作成できます。

1. 新しいタスクを作成するには、PC または 物理サーバーに進み、デバイスを選択して、[タスク作成]をクリックして エージェント バックアップ作成ウィザード を開始します。



2. ウィザードのステップに従ってタスクに名前を付け、ターゲット デバイス (もしまだ選択されていなければ) を選択して、バックアップ先を選んでください。

ソース タイプの選択

選択肢：

- ・ **デバイス全体**：設定とアプリケーションを含む PC あるいはサーバーをフル バックアップします。
- ・ **システム ボリューム**：Windowsシステム データと共にパーティションを保護します。
- ・ **カスタマイズされたボリューム**：手動でバックアップ ターゲットを選択します。外部ハード ドライブ以外の外部デバイスはサポートされないことに注意してください。

バックアップ先の選択

1. バックアップ先がBtrfsファイル システムを使用していることを確認してください。Active Backup for BusinessをNASにインストールした時に、「ActiveBackupforBusiness」という名前の共有フォルダが自動的に作成されます。
2. バックアップ先としてBtrfsファイル システムで共有フォルダを選択します。

タスク設定

- ・ データ転送圧縮、データ転送暗号化およびアプリケーション対応バックアップを有効化できます。

- 圧縮と暗号化はバックアップ先に対して有効化できます。
- **物理サーバー**のバックアップを行うためには、**バックアップ検証**を選択して、スケジュールされたテストランを実施することができます。これは**Virtual Machine Manager**で実行されます。バックアップが正常に復元されたことを確認できるよう、すべてのプロセスは参考のためビデオとして記録されます。
- **物理サーバー**のバックアップを行なう場合、プレ/ポスト スクリプトをカスタマイズすることができます。

注：

アプリケーション**対応**バックアップは**Microsoft Volume Shadow Copy Service (VSS)**を使用してバックアップ データの一貫性を確保します。この機能を使用する場合、ターゲット デバイスで**VSS**が有効化されていることを確認してください。

バックアップ タスクの予約

- **手動**バックアップでは、各バックアップタスクを手動で開始する必要があります。
- スケジュールされたバックアップは、1時間ごと、毎日、毎週に実行するように設定することができます。
- PCバックアップに利用可能な**イベント別**バックアップは、画面がロックされた時、ユーザーがサインアウトした時、システム起動した時という選択に応じてタスクを実行します。また、バックアップ間の最小の時間間隔を指定することができます。

ITインフラストラクチャの使用負荷が非常に高い時にタスクが実行されるのは望ましくない場合、**バックアップ ウィンドウの設定**を選択して、各週にバックアップ タスクが実行される時間帯を設定することです。

保持ポリシーを選択

- バックアップのバージョンをすべて保存、保存するバージョンの数を制限、あるいはスケジュールに従って特定のバージョンだけを保存のいずれかを選べます。
- 毎日、毎週、毎月あるいは毎年最新のバージョンを保持するなど、バックアップ バージョンを保存するルールを設定することができます。保持ポリシーは、**[Active Backup for Business] > [PC]** または**[物理サーバー] > [タスク リスト] > タスクを選択 > [編集] > [保持] > [高度な保持ポリシー] > [ルールを設定]**で編集できます。
- **最新の...バージョンのみを保持**のオプションを選択すると、時間間隔の設定にかかわらず設定された数のバージョンが保存されます。特定の時間範囲複数のバックアップ バージョンがある場合は、最新のものだけが保存されます。たとえば、1時間ごとに実行されるバックアップ タスクに対して、**[「1」日の最新バージョンを保持]**に設定した場合、23:00 にバックアップされたバージョンのみが保持されます。

- ひとつのバージョンが一度に複数の保持ルールに合致することも可能です。たとえば、ひとつのバージョンが週次保持ルールと毎日保持ルールの両方によって同時に保持されることが可能です。高度な保持ポリシーは、**長期保持ポリシー (GFS)** を採用します。

Set Rules
✕

Apply the following rules to keep backup versions. One version can meet multiple rules at the same time. [Learn more](#)

<input checked="" type="checkbox"/> Keep all versions for	<input type="text" value="1"/> days
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the day for	<input type="text" value="7"/> days
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the week for	<input type="text" value="4"/> weeks
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the month for	<input type="text" value="12"/> months
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the year for	<input type="text" value="3"/> years

The system will ensure a certain number of latest versions are kept before applying the retention rules above.

Number of latest versions to keep	<input type="text" value="10"/> versions
-----------------------------------	--

Cancel
OK

バックアップ タスクの管理

既存のタスクはすべて、**[Active Backup for Business] > [PC]**または**[物理サーバー] > [タスク リスト]**の下に表示されます。

バックアップ タスクの編集または削除

タスクを個別に編集、またはいくつかのタスクを同時に編集するには、**[PC]**または**[物理サーバー] > [タスク リスト]**に進み、1つまたはいくつかのタスクを選択し (Ctrl + 左クリック)、**[編集]**をクリックします。

- **バックアップ先**は変更できません。
- **タスク設定**と**ソースタイプ**は、個別あるいは同時のいずれでも変更可能です。
- **タスク名**は、個別でしか変更できません。

バックアップ タスクを削除するには、対応するタスク リストで1つ以上のタスクを選択してください。操作を確認したら、すべてのバックアップされたデータがバックアップ タスクと共に削除されます。

タスクを削除しても、**Active Backup for Business Agent**はクライアント デバイスから削除されません。これは引き続き**[PC]**または**[物理サーバー]**の下に表示されます。テンプレートは、**[設定] > [テンプレート]**の下に保持されます。

詳細

バックアップのソース、実行時間、持続期間、ログ時間など、タスクのステータスおよびログに関する情報を表示するには、タスクを選択して[詳細]をクリックします。

バージョン

作成のステータスおよび時間などのバックアップされたバージョンの情報を見るには、タスクを選択して[バージョン]をクリックします。また、バックアップ検証が有効化されていると、フォルダアイコンをクリックすることで、バックアップされたデータとバックアップのライブビデオを閲覧することができます。

Backup Version Information				X
	Time of creation	End Time	Backup Status	
	05/13/2021 03:00:02	05/13/2021 03:01:21	Successful	 

エージェントをアップデート

Synology NAS がインターネットに接続されている場合、[Active Backup for Business] > [PC]または[物理サーバー]に進みます。更新が必要な対象デバイスを選択し、[詳細] > [エージェントの更新]をクリックします。

Synology NASがインターネットに接続されておらずプライベート ネットワークに接続されている場合：

1. [ダウンロード センター](#)で**Active Backup for Business Agent**インストーラーをダウンロードし、**File Station**を使用してそれをSynology NASの任意のフォルダにアップロードします。インストーラーの位置を書きとめてください。
2. デバイス上で、**root権限**で**DSM**に**サインイン**します。
3. 次のコマンドを実行して、ターゲット デバイスにエージェントをインストールします。

```
cp /[インストーラーをアップロードしたボリューム]/[インストーラーをアップロードしたフォルダ名]/[インストーラー名**]/**[Active_Backup_for_Businessをインストールしたボリューム]/@tmp/
```

たとえば、インストーラーの場所が /volume1/Files/Synology Active Backup for Business Agent-2.0.4-0621-x64.msi で、Active Backup for Businessがvolume1にインストールされている場合、コマンドは下記のようになります。

```
cp /[volume1]/[Files]/[Synology Active Backup for Business Agent-2.0.4- 0621-x64.msi**]/**[volume1]/@tmp/
```

4. セットアップが完了すると、エージェントが正常にアップデートされます。

復元ガイド

Active Backup for Businessは、Windowsデバイスのバックアップを復元するためにいくつかの方法を提示します。どの方法が事例に最も適しているかは、単にファイルを復元しただけなのか、それとも前の状態にデバイス全体を戻したいのかどうかによって変わります。

PCバックアップタスクは、単に物理的な回復あるいはファイルレベルの回復のみを許可しますが、**物理サーバー**のバックアップタスクは、**仮想リカバリオプション**が使用できます。

リカバリオプション

2つの方法がPCと物理サーバー両方のタスク復元のに利用可能です。

- **デバイス全体の復元**：ブート可能なISOイメージまたはUSBドライブを作成して、**Active Backup for Business**リカバリウィザード経由でデバイスを起動します。必要に応じて、後でSynology NAS経由でネットワーク上でデバイス全体 (ベアメタル復元) あるいは特定のボリュームを復元することができます。
- **細かな (ファイルまたはフォルダレベル) 復元**：Active Backup for Business Portalで復元のためにバックアップバージョン、ファイルまたはフォルダを選択し、元の位置に自動的に復元するか、異なるデバイスや場所にデータをダウンロードします。DSMの[コントロールパネル]で、復元またはダウンロードの権限をエンドユーザーに与えることができます。

また、以下の方法を使用することで、**物理サーバー**のバックアップタスクをVMware vSphere、Microsoft Hyper-V、またはSynology VMM経由で仮想マシンに復元できます。

- **即時復元**：サービスを効率的に再開するために、圧縮して重複排除されたバックアップイメージからVMware、Hyper-V あるいは Synology VMM の仮想マシンとしてサーバーを直接再起動してください。
- **フル仮想マシン復元**：サーバーをVMwareまたはHyper-Vにブートする前にバックアップイメージを仮想マシンに変換して、仮想ディスクの入力と出力のパフォーマンスを改善します。

デバイス全体の復元

デバイス全体またはボリューム全体を前の状態に戻すには、**リカバリメディア**を作成し、そのリカバリメディアを使用してデバイスをブートする必要があります。

このガイドはリカバリメディアを作成する方法の概要のみを提供しているため、より詳細な情報と指示については[リカバリメディア作成ガイド](#)を参照することをお勧めします。

リカバリメディアの作成

Windowsのデバイスあるいはボリュームの全体を復元するには、最初に外部のリカバリメディアを作成しなければなりません。Active Backup for Businessにより、ブート可能なUSBドライブあるいはISOイメージ (CD生成用) を作成することができます。これらは**Active Backup for Business**リカバリウィザードの中でブートすることができ、デバイスをSynology NASから復元できます。

注：

リカバリメディアは、各デバイスの構成用に別々に作成される必要があります。2つのデバイスが異なる言語あるいは地域設定を持っている場合、あるいは異なるWindowsバージョンを実行している場合、あるいは異なるドライバーを含んでいる場合、各デバイスに対して別々のリカバリメディアを作成する必要があります。

利用可能な作成方法

Active Backup for Business でブート可能なリカバリドライブまたはディスクを作成する2つの方法があります。

- **自動**：64ビットのシステムを復元する場合、**Active Backup for Business Recovery Media Creator**を使用して、Windows内にリカバリメディアを自動的に作成することができます。これは、復元したいデバイスと同じ言語と地域の設定、Windowsバージョンおよびドライバーでなければなりません。
- **手動**：手動リカバリメディア生成は、32ビットのシステムのみならず、自動リカバリメディア作成の条件を満たさないデバイスでも利用可能です。

Windowsのプレインストール環境

リカバリメディアを作成する時、**Windowsプレインストール環境 (Windows PE)** のカスタマイズされたインストールが、リカバリドライブ上でセットアップされます。Windows PEは、ポータブルドライブから容易にブートすることができ、システムを修理するかトラブルシュートするために使用することができます。軽量のWindowsオペレーティングシステムです。

Windows PEは、**ABB Recovery Media Creator**に含まれていますが、手動のリカバリメディア作成のためには、**展開ツールをWindowsアセスメント&デプロイメントキット (Windows ADK)** の一部として合わせてダウンロードする必要があります。

リカバリメディアでのベアメタル復元

復元したいデバイス用のリカバリメディアが正常に作成されたら、リカバリドライブを使用してデバイスを**Active Backup for Business**リカバリウィザード内でブートできます。

ウィザードを使用してWindowsデバイスあるいはボリュームの全体を復元する方法のステップバイステップ手順は、次の記事とビデオを参照してください。

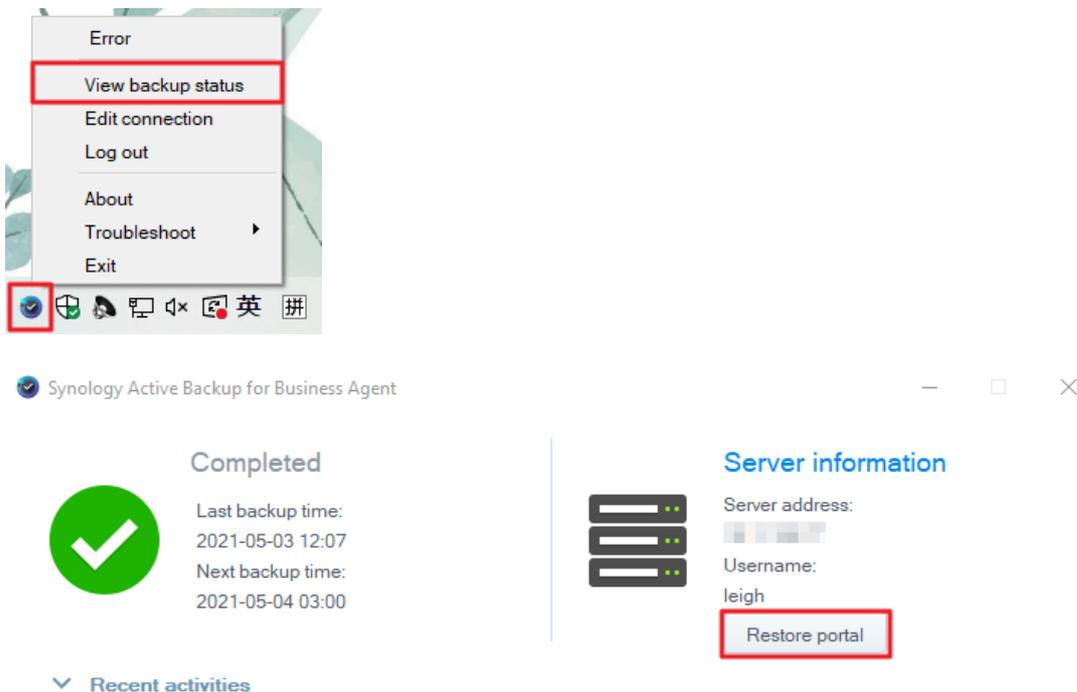
- [Synology Active Backup for Business復元ウィザードヘルプ記事](#)
- [Active Backup for Businessを使用してWindowsデバイスを復元しバックアップする方法 | Synology](#)

個々のファイルを復元

個々のファイルあるいはフォルダの復元は、**Active Backup for Business Portal**を通じて実行されます。ポータルにアクセスするには、Active Backup for Businessを管理するDSMから直接アクセスするか、あるいは復元したいエンドポイントデバイスの**Active Backup for Business Agent**からアクセスする、2つの方法があります。

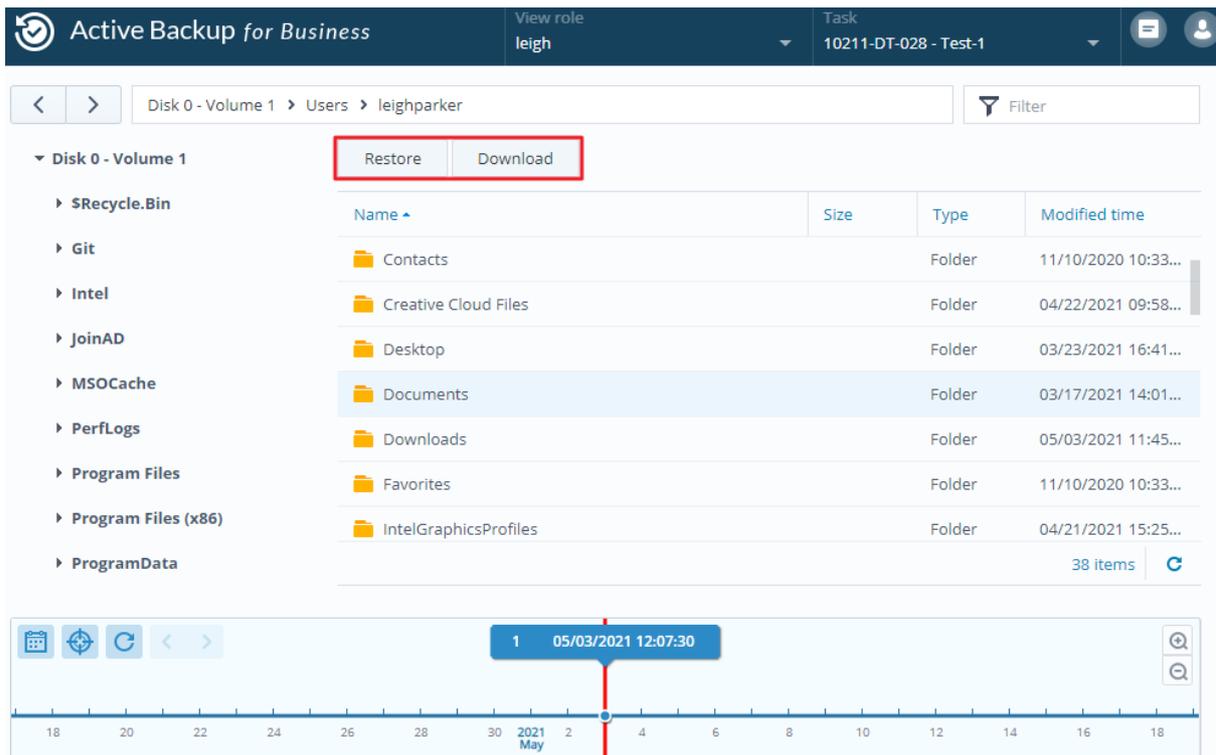
エンドポイント デバイスからファイルあるいはフォルダを復元

1. ポータルにアクセスするには、Windowsシステムトレイの**Active Backup for Business Agent**を右クリックし、**[バックアップステータスを表示]**をクリックして、**[ポータルを復元]**をクリックします。



2. DSMアカウントでサインインします。
3. 右上隅の**[役割を表示]**と**[タスク]**の下で、正しいユーザーとデバイスが選ばれていることを確かめてください。
4. ページ下部のスライダーを使用して、フォルダまたはファイルを復元するバックアップバージョンを選択し、次にファイルエクスプローラーでフォルダ構造からディレクトリまたはファイルを選択します。
5. データの**[復元]**または**[ダウンロード]**を選択してください。**[復元]**を選択した場合、バックアップエージェントはファイルまたはフォルダをダウンロードし、デバイス上の元の位置にそれらを戻します。**[ダウンロード]**を選択すると、選択されたファイルが、選択されたダウンロード場所へブラ

ウザ経由でダウンロードされます。



DSMからのファイルまたはフォルダの復元

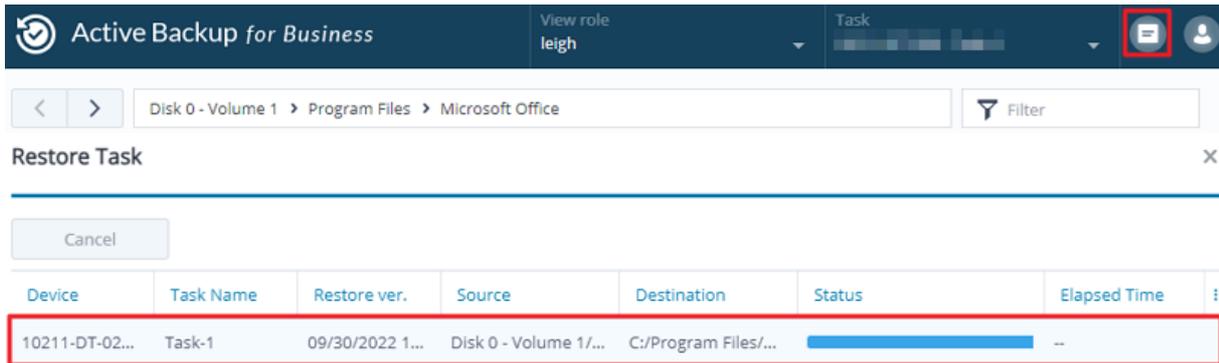
Active Backup for Businessを管理する管理者とアカウントは、どのデバイスからも復元ポータルにアクセスすることができます。元のバックアップ元デバイスにファイルを戻すかあるいはブラウザによってダウンロードするには、下記のステップを使用してください。

1. DSM で、[メイン メニュー]に進み、**Active Backup for Business Portal**を選択します。
2. ページの上部の[役割を表示]の下で、適切な復元権限を持ったユーザーを選んでください。
3. タスクの下で、ファイルの復元元のソース デバイスを選択してください。
4. 復元するフォルダまたはファイルを選択します。
5. ページ下部のスライダーを使用して、フォルダまたはファイルを復元するバックアップ バージョンを選択し、次にファイル エクスプローラーでフォルダ構造をクリックスルーし、ディレクトリまたはファイルを選択します。



6. データの[復元]または[ダウンロード]を選択してください。[復元]を選択した場合、バックアップ エージェントはファイルまたはフォルダをダウンロードし、デバイス上の指定された位置にそれらを戻します。また、関連するチェックボックスにチェックを入れることにより、復元中に同じ名前を持つファイルをスキップできます。[ダウンロード]を選択すると、選択されたファイルが、選択されたダウンロード場所へブラウザ経由でダウンロードされます。

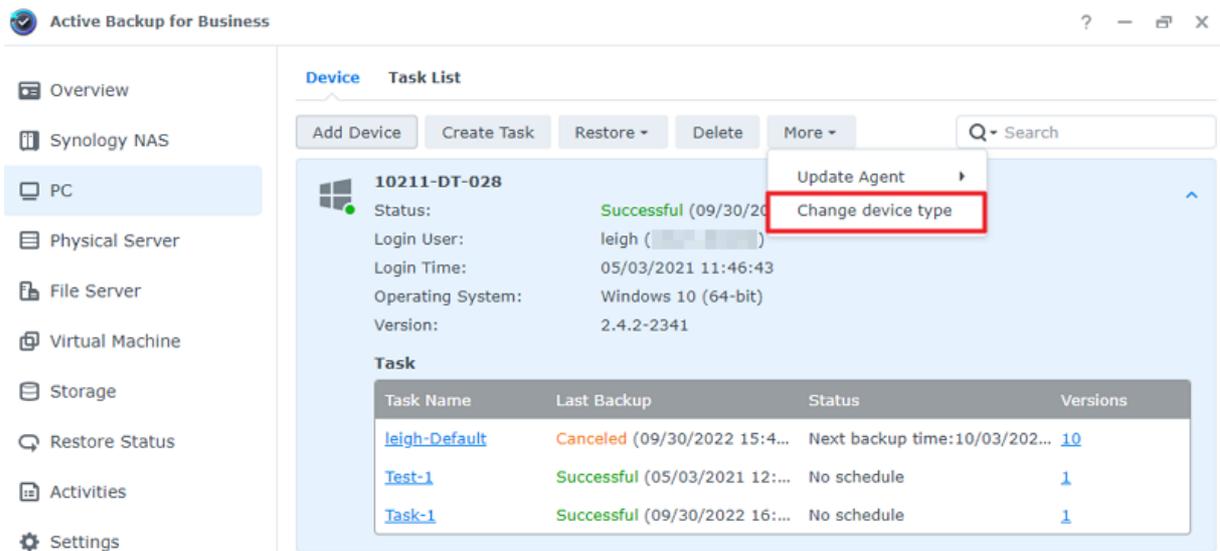
右上隅の復元タスク アイコンのクリックにより、復元の進行を見ることができます。



仮想マシンにサーバーを復元

Active Backup for Businessで、PCをPCまたは物理サーバーとしてバックアップすることができます。サーバーは、仮想マシンとして、**Virtual Machine Manager (VMM)**、**VMware vSphere**、または**Microsoft Hyper-V**に復元できます。VMMを使用してPCまたはサーバーを仮想マシンとして復元するには次の手順を用いてください。

1. コンピュータを **PC**、としてバックアップする場合、**[Active Backup for Business] > [PC] > [デバイス]**に進み、**[その他] > [デバイスタイプを変更]**をクリックして、物理サーバーに変更します。



2. バックアップが既に物理サーバーにある場合、**[物理サーバー]**に進み、デバイスを選択して**[復元]**をクリックします。
3. **[Synology Virtual Machine Manager (VMM) に即時復元]**、または、**[VMware vSphere に復元]**、または**[Microsoft Hyper-V に復元]**を選択します。
4. **[VMware vSphere に復元]**または**[Microsoft Hyper-V に復元]**を選択した場合、**[即時復元]**または**[仮想マシン完全復元]**を選択します。
5. 希望の復元ポイントを選択して、ウィザードの指示に従ってセットアップを完了します。
6. 完了すると、インポートされた仮想マシンが、**Virtual Machine Manager**の**[仮想マシン]**ページに表示されます。

ベストプラクティス

次のセクションは、Synology NASのセキュリティを保ちながら、バックアップデータの紛失の防止、バックアップタスクの継続性確保、そして多くのデバイスへのバックアップエージェントの一括デプロイメントの手順に関する推奨事項を説明します。

リモートバックアップのコピーを保持し、再リンクする

Active Backup for Businessは、Synology NAS上のすべてのデバイスのバックアップデータを安全に保存します。ただし、1つのデバイスに生じた問題がインフラストラクチャ全体に影響することがあります。

自然災害、窃盗あるいはネットワークが使用不能になったためにデータを取り出すことができない場合や、復元プロセスの遅延が発生することがあります。そのため、異なるデバイス上で、および異なる場所で、すべてのバックアップのコピーをリモートで保存することを強くお勧めします。

すべてのデータのコピーを3つ (オリジナルのコピー、バックアップ、および異なる場所にあるそのバックアップのコピー) 常に維持することが重要です。これは、**3-2-1 バックアップルール**とも呼ばれます。Synology NASには、この戦略を簡単に実行できるようにするソフトウェアが含まれています。

リモートコピーを作成

次の2つのDSMアプリケーションは、Active Backup for Businessのデータ、およびSynology NASからの設定情報を、他のデバイスあるいはクラウドにコピーするために使用することができます。

- **Snapshot Replication:**セカンダリSynology NASへのアクセスを持っている場合、このオプションが推奨されます。ABBのデータと設定を別のSynology NASに複製して、複製からそのデバイス上のABBのタスクをすべて直接素早く再開することができます。
- **Hyper Backup:**このオプションは、ポータブルドライブ、ファイルサーバーおよびクラウドストレージなど、より多くの場所へABBのデータと設定をバックアップすることを可能にします。しかし、リカバリは、ABBのタスクを再リンクして再開する前に、機能するSynology NASに最初にバックアップを復元する必要があります。

再リンク

複製またはバックアップのタスクを作成した後で、既存のActive Backup for Businessのタスクやバックアップデータの復元や再リンクの仕方を知っておくことが重要です (これらがセカンダリNASや、パブリッククラウド、その他のストレージメディアにあっても)。

Active Backup for Businessのデータを **Snapshot Replication**および**Hyper Backup**を使用してバックアップおよび再リンクする方法に関する詳細な指示は、次のチュートリアルを参照してください。

- [Active Backup for Business](#)データをディスティネーションのSynology NASにバックアップして再リンクする方法。

お使いのSynology NASが64ビット プロセッサを搭載し、DSM 6.1.7以降が実行されており、Active Backup for Business 2.0.4以降が実行中で必要なパッケージがインストールされていることを確認してください。より詳細については、チュートリアル[の環境](#)セクションを参照してください。

Windows環境での大規模デプロイメント

Active Backup for Businessは、オフィス内のすべてのWindowsデバイスに安全にデプロイすることができます。ただし、大量展開を実装する場合、以下のような課題に遭遇することがあります。

- **インストーレーション**：Active Backup for Businessすべてのソース デバイスにの正しいバージョンがインストールされていることを確認してください。
- **セットアップ**：機密のアカウントの詳細情報を公開しないで、同じ Synology NAS にエージェントのすべてのインスタンスを構成します。

大規模デプロイメント オプション

Active Backup for Business Agentを使用して大規模デプロイメントを実行するには、専用のDSMアカウントでカスタマイズされたインストーラーを使用する方法、およびドメイン アカウントで汎用インストーラーを使用する方法の2種類があります。

どの方法を使用すべきかは、お使いのSynology NASが、バックアップを管理するLDAPおよびActive Directory Servicesのいずれに統合されるかに依存します。また、復元をするすべての権限をエンドユーザーに与えるかどうかにも依存します。

専用のDSMアカウントを使用するカスタマイズされたインストーラー (推奨)

Active Backup for Businessのグループ デプロイメントのために、制限付き権限を持つ個別の新しいDSMユーザー アカウントを用意することを推奨します。

電子メールあるいはその他の手段でログイン情報を渡すことをせずに、多くのコンピュータ上で**Active Backup for Business Agent**をセットアップするには、あらかじめ作成したカスタムDSMのアカウントのログイン情報を持ったエージェント用にWindowsインストーラー (.msi) ファイルを事前に投入、もしくは、スクリプトの一部としてこれらの情報を提供することができます。

保護したいすべてのデバイスに正常にエージェントを展開できたら、セットアップのセキュリティのためにカスタムDSMのアカウントのログイン情報を変更することができます。これによって、NASのバックアップにアクセスする際に、インストーラーのファイル/スクリプトでユーザー名やパスワードを誰も見ることができないようにできます。

カスタムDSMアカウントの作成方法：

1. DSM adminまたはadministratorsグループにサインインします。[パッケージセンター]に移動し、**Active Backup for Business**をインストールします。

2. [コントロール パネル] > [ユーザー]に進み、[作成]をクリックします。[ユーザー作成ウィザード]の[ユーザー情報]の下で、適切なユーザー名および一時的なパスワードを入力します。この一時的なパスワードはMicrosoftインストーラーで配布されますが、他で使用してはいけません。完了したら、[次へ]を、クリックします。
3. [アプリケーション権限を割当]ページで、**Active Backup for Business**の隣の[許可]にチェックを入れて、このユーザー アクセス権限をパッケージに付与します。次に、ウィザードに従ってセットアップを完了します。
4. これで、このユーザー アカウントを使用して、保護したいデバイスにエージェントを展開することができます。

ドメイン アカウントを使用した汎用インストーラー

この方法は以下のステップで要約できます。

1. それぞれのMicrosoft Active DirectoryあるいはLDAPエンド ユーザーに、別々のDSMアカウントを作成してください。
2. 汎用ABB Agent Microsoftインストーラー ファイル (.msi) をダウンロードしてください。
3. 多くのPCにインストーラーを配布するには、**Active Directoryグループ ポリシー オブジェクト**または**スクリプト**を使用します。
4. エンド ユーザーにドメインのログイン情報を入力してもらい、セットアップを完了します。

注：

- ABBを大量に安全なデプロイメントを行うには、**Active Backup for Business Agent**の最新バージョンをダウンロードして使用する必要があります。バージョン 2.0.3-0472 以前では、DSMアカウントのログイン情報はリモートで変更することができません。それはセキュリティ上のリスクを生じさせます。
- 利用可能な場合、**Windows Active Directory**を使用して、**Active Backup for Business Agent**を多くのコンピュータにインストールすることができます。
- リモート デバイスへエージェントを編集して配布するその他の方法として、スクリプトを使用して手動でエージェントをインストールするようにユーザーに依頼する方法があります。
- **グループ ポリシー オブジェクト**を**Windows Server Manager**で使用することで、WindowsインストーラーをDSMのログイン情報で事前に投入することができます。

大規模デプロイメント用にSynology Active Backup for Business Agentを準備する

サーバーアドレス、ユーザー名、パスワードを入力して各デバイスでインストールを実行する代わりに、**Active Backup for Business Agent**インストーラ (.msi) を事前に情報を設定して複数のデバイスに同時にインストールできます。

複数のコンピュータにインストーラーをデプロイする前に、いくつかのプロパティを編集することができます。編集しない場合、インストール時に各クライアントに手動で入力しなければなりません。すべてのクライアントで同じ設定を共有する場合は、インストーラーを編集することをお勧めします。これらのクライアントはバックアップ先と同じSynology NASを共有します。

1. [ダウンロードセンター](#)エージェントから**Active Backup for Business**の最新バージョン用の .msi インストーラーをダウンロードします。
2. **Microsoft Orca エディター**をインストールするか、あるいは希望のMSIエディターを使用して .msi インストーラー ファイルを編集してください。
3. エージェントの作成を完了し、グループ ポリシーで大規模デプロイメントを実行するには、[ABB大規模デプロイメント チュートリアル](#)の指示に従ってください。

詳細情報

関連の記事

- [Active Backup for Businessに関するよくある質問](#)
- [Active Backup for Businessを実行する適切なNASの選び方](#)
- [Active Backup for BusinessデータをディスティネーションのSynology NASにバックアップして再リンクする方法](#)
- [一括デプロイメント用にActive Backup for Businessエージェントを設定する方法](#)
- [Active Backup for BusinessでMicrosoft SQL Serverをバックアップして復元する方法](#)
- [Active Backup for Businessを使用してPCまたはサーバーを完全にバックアップする方法](#)
- [Active Backup for Businessを別のSynology NAS/サーバー/USBフラッシュドライブ/クラウドサービスにバックアップするにはどうすればよいですか？](#)
- [Active Backup for Businessと同時にバックアップできるデバイスの数はいくつですか？](#)

ソフトウェア仕様

パッケージの機能、コンポーネントおよび制限に関する詳細は、[Active Backup for Businessソフトウェア仕様](#)を参照してください。

その他のリソース

その他のステップバイステップのチュートリアルおよび図解情報は、[SynologyのYouTubeチャンネル](#)をご視聴ください。そこで、「Active Backup for Business」を検索することにより関連するビデオを見つけることができます。

さらに、[Synology Documentation](#)で、Active Backup for Business用のadminガイド、パンフレット、技術仕様書、ユーザーガイド、白書、およびその他を検索できます。

付録

権限とセキュリティ

Active Backup for Businessのアクセスと権限

ABB アイ テム	アクセスと権限
バック アップ プ ス ト レ ー ジ	<ul style="list-style-type: none">• ABBは、それがインストールされたDSMのアカウントの共有フォルダーにデータを保存します。• 他のアカウントによるアクセスは無効にできます。• バックアップ フォルダはデータを安全にしておくために暗号化することができます。
認証	<ul style="list-style-type: none">• ABBは、それがインストールされたDSMのアカウントのユーザー名とパスワードを使用します。• ログイン情報は、各ソース デバイスで別々に Active Backup for Business Agent で入力する必要があります。• DSMアカウントのパスワードへの変更はサーバー側でのみ構成することができます。• DSMアカウントのパスワードを変更しても、ソースデバイスで Active Backup for Business Agent の再設定は不要です。

復元 権限	<p>PCのバックアップ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 復元を行なう権限は設定できません。 DSM adminアカウント、DSM adminグループユーザー、およびABBがインストールされたDSMアカウントは、DSMのABBを使用してファイル、フォルダ、およびすべてのデバイスまたはボリュームを復元できるだけでなく、Active Backup for Business Portalを使用してファイルとフォルダも復元できます。 <p>物理サーバーのバックアップ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 復元を行なう権限は、すべてのタイプのDSMのユーザーおよびエンドユーザーに対して、構成するまたは無効にすることができます。 DSMユーザーには、DSMのABBを使用して、ファイル、フォルダ およびすべてのデバイスまたはボリュームを復元できる許可を割り当てることができます。 DSMのユーザーとエンドユーザーの両方に、Active Backup for Business Portalを使用して、Synology NASからファイルおよびフォルダを復元できる権限を割り当てることができます。
バック アップ 設定	<p>バックアップ設定は、DSM で Active Backup for Businessへのアクセスを持つアカウントによってのみ、サーバー側で構成することができます。</p>

Active Backup for Business Agentのアクセスと権限

ABB Agent アイテム	アクセスと権限
エー ジェ ント をイ ンス ト ール	<p>エンドユーザーは十分なドメイン権限を持っている場合に、エージェントをインストールまたは削除できます。</p>
認証	<p>エンドユーザーは通常のインストールの間に次のログイン情報を編集することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> DSMアカウントのユーザー名 DSMアカウントのパスワード Synology NASのIPアドレス

セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> • エンドユーザーは常に次の詳細を見ることができます。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ DSMアカウントのユーザー名 ◦ Synology NASのIPアドレス • エンドユーザーはインストール後にログイン情報を変更することはできません。
管理	<ul style="list-style-type: none"> • エンドユーザーはバックアップ設定を編集することができません。 • エンドユーザーはいつでもサーバー IP アドレスを変更することができます。
復元	<p>PCのバックアップ：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 復元を行なう権限は構成できません。 • DSM adminアカウント、DSM adminグループユーザー、およびABBがインストールされたDSMアカウントは、DSMのABBを使用してファイル、フォルダ、およびすべてのデバイスまたはボリュームを復元できるだけでなく、Active Backup for Business Portalを使用してファイルとフォルダも復元できます。 <p>物理サーバーのバックアップ：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 復元権限は、すべてのタイプの DSM のユーザーおよびエンドユーザーに対して、構成するまたは無効にすることができます。 • DSMユーザーには、DSMのABBを使用して、ファイル、フォルダ およびすべてのデバイスまたはボリュームを復元できる許可を割り当てることができます。 • DSMのユーザーとエンドユーザーの両方に、Active Backup for Business Portalを使用して、Synology NASからファイルおよびフォルダを復元できる権限を割り当てることができます。